

新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画 令和2年度取組結果

7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	令和2年度	①令和2年度 重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(中間)	④令和2年度下半期の取組	⑤R2年度達成状況	⑥R2年度結果と備考
1. 常設展示の再構築	琵琶湖の魅力を発信し、現在とつながる展示空間	交流や対話が生まれる賑わいのある展示室 地域の人々と創りあげる展示	各展示室リニューアル		創造室	第3期整備(A・B)	10月にA展示室、B展示室をリニューアルオープンする。	【リニューアルオープン】 ・10月10日 A展示室、B展示室	-	100%	達成した
			研究成果に基づく常設展示の構築と新しい交流空間での学びの提供	常設展示・交流空間の更新	研究部	研究成果に基づいたA・B展示室の展示作成	最新の研究成果を元に、展示資料準備、造作物製作、グラフィックや解説パネル等の原稿を準備し、グランドオープンを実現する	10月10日のグランドオープンに向けて準備を整えている	-	100%	達成した
			新たな展示における恒常的な最新成果の反映	C展示室「研究スタジアム」による発信		7月に更新	コロナ禍により延期	春に感染症対策のための休館期間があったため、10月に更新を行う	100%	10月に更新を行った。	
			資料の活用		資料活用	A B展示室資料設置	展示予定資料の情報整理、登録と展示制作	展示計画に沿った資料情報の整備と展示室グラフィック解説・キャプション等への反映		100%	達成した
			運営体制の確立		展示	完了					
2. 交流空間・交流機能の再構築	見える・伝わる・広がる交流空間・交流機能	おとなも楽しめる仕掛け・プログラムを充実	おとなのディスカバリー ディスカバリールーム	創造室	完了						
		樹冠トレイルで博物館から琵琶湖/屋外フィールドへ誘う	樹冠トレイル		完了						
		学校・一般団体向けの屋内昼食場所	団体用屋内昼食スペース	創造室	完了						
		博物館の活動に参加しやすい仕組みづくり	はしかけ制度の充実	担当学芸職員を増やしグループを多様化	交流	はしかけ制度の充実・発展	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた活動の充実、発展	活動に関するルールを設定済み。ICTを活用した活動の推奨等。	新しい生活様式に対応した活動の提案	100%	新しい生活様式に対応した形での活動を支援できた。
			フィールドレポーター制度の新展開	ICTを活用したレポート機会の充実でレポーターのスキル向上	交流	オンラインを活用した調査の試行	ヌートリアの調査においてオンライン型調査票を導入し、従来の調査票と併用した	調査結果の取りまとめ	第2回調査の実施	100%	
			地域環境交流室の運営	会議やワークショップ・発表に使える空間の提供	交流	改良を随時行う	-	-	-	-	コロナ禍により利用が制限された結果、特筆すべき事項はなかった
		学校向けのプログラムの充実	教員用ガイドツールの作成		交流	2版の改善と3期リニューアルの反映	第3期リニューアルを反映した展示ガイドの作成	試作ガイド作成に向けての情報収集。	試作ガイドの提供と検証を行う。	100%	
			新体験プログラム開発		交流	3期リニューアルの新展示に即したプログラムの開発	屋外展示を利用した低学年向けプログラムの開発と施行	屋外展示を利用した低学年向けプログラムを計画・実施。	プログラムの内容について検証を行う。	100%	
		地域での実践を担う「人が育つ」博物館へと進化	「人が育つ」カリキュラムの開発と実践	体系的な講座・ワークショップ/館外の人を含む実行委員会	交流 研究部	館外の人を講師とする講義・ワークショップの導入(目標:3/4以上)	研究部と交流係が連携して新琵琶湖湖学セミナーを開催する。高校以上の参加者に、琵琶湖と集水域の現状を紹介し、未来を考えてもらう内容とする。	2021年の1月～3月までに3回行うセミナーの各テーマと講演者を決定	新型コロナウイルス対策を行い、新琵琶湖湖学セミナーを実施予定。来年度に向けた計画の策定も進める。	100%	新型コロナの感染対策で入館制限のあった時期以外の講座・観察会・イベント等は概ね計画通りに進めることができた。 新琵琶湖湖学研究セミナーは、講師は学芸職員のみとし日時を縮小して実施した。
			地域で活動する人の情報交換の場づくり	課題別交流会の運営ノウハウ確立	環境学習センター	新たな課題の交流会を設置	コロナ禍における交流会の実施方法の検討。企業ビオトープに関する情報発信	本年度企画展示での企業ビオトープに関する情報発信。企業の地域連携と、マスコミを通じた情報発信	令和元年度に予定していた交流会開催の再検討	50%	新型コロナウイルスの感染症のため開催に至らなかった。
			ウェブサイト「エコロし〜が」の改良		環境学習センター	ウェブサイト再構築	スマートフォン等でも利用可能なウェブサイトの構成案を検討し、予算を獲得する		令和3年度予算案として環境保全基金活用にて要求使い勝手の良いウェブサイトの構成について、さらに検討を進める	100%	令和3年度に予算を得た

7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	令和2年度	①令和2年度 重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(中間)	④令和2年度下半期の取組	⑤R2年度達成状況	⑥R2年度結果と備考		
3. 利用者の利便性・快適性を高める施設整備	ICTの活用	来館者が快適で楽しく情報を得られるシステムの整備	デジタルサイネージ		創造室	完了							
			多言語音声展示ガイド		創造室→企画調整課	第3期分コンテンツ変更	コンテンツ制作と公開	コンテンツ制作済 新OS対応で公開遅れ	新OSに対応し公開	100%	OS対応済み		
			無料公衆Wi-Fi整備		総務課	完了							
	UDの推進	誰でも安心して利用できる博物館	高齢者や福祉団体の休憩室整備		創造室	完了							
			誰でも容易に理解できる表示	わかりやすい館内サイン/多言語対応/読みやすい解説パネル		創造室	第3期整備	10月にA展示室、B展示室をリニューアルオープンする。	【リニューアルオープン】 ・10月10日 A展示室、B展示室	-			
		利用者が参加する使い勝手の検証			展示	グランドオープン後のサイン・パネルの検証	グランドオープンに合わせた新規サイン・パネルの作成 グランドオープン後の全館を通じたサイン・パネルの検証	グランドオープンに合わせた新規サイン・パネルの追加作成	グランドオープン後の全館を通じたサイン・パネルに関する意見集約、必要であれば修正	100%			
				創造室	第3期整備	・UD検討委員会は令和元年度に終了し、その検討結果に基づき整備する。 ・10月にA展示室、B展示室をリニューアルオープンする。	【リニューアルオープン】 ・10月10日 A展示室、B展示室	完了		達成した			
4. 多様な主体との連携	地域との連携	地域の多様な主体との協同	地域と博物館の共同事業の検討および宣伝		交流	共同事業のアイデア集まるとめ	共同事業のアイデアの収集、とりまとめ	共同事業の事例を10件ほど収集している	共同事業の事例について連携先、連携内容を表にまとめる。今後の多様な主体との連携事業の内容や実施方法などの検討材料にする。	100%	達成した		
	学校との連携	学校による博物館利用の推進	地域を研究する中学生・高校生の交流会			交流会・ワークショップ開催 琵琶湖博物館を活用した中高生の活動の活性化	交流会・ワークショップの開催 琵琶湖博物館を活用した中高生の活動の活性化	新型コロナウイルス感染症対策のため実施できず。リモートによる自己研鑽が主	交流会・ワークショップの開催 琵琶湖博物館を活用した中高生の活動の活性化	50%	琵琶湖梁山泊が令和3年5月にオンラインで「総決起集会」を実施した。		
	関係団体との連携	環境問題解決のため試験研究機関や行政との連携を強化	琵琶湖環境研究推進機構への参加			研究部	「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」参加	第2期成果のとりまとめ	共同研究機関等と連携し、成果報告書案の作成を進めた。	共同研究機関等と連携し、成果報告書を作成する。	100%	年度予定分は達成	
			「外来水生植物駆除に関わる研究」に参加				他の研究プロジェクトと連携しながら、担当学芸員を中心に研究を進める		継続して野外調査を実施し、行政による対策事業の具体的な内容の立案に協力した	継続して調査を実施する。	100%	年度予定分は達成	
			南湖の沈水植物に関する研究(琵琶湖・琵琶湖研・県立大)				共同研究は終了し、とりまとめを行う。 一部は総合研究で継続。		今年度の研究報告会で報告予定だったが延期になった。	継続してとりまとめを進める。	100%	年度予定分は達成	
			その他の連携				試験研究機関連絡会議	・試験研究機関連絡会議の発表会および本会議の開催。 ・NORNAC大会参加。		・試験研究機関連絡会議の発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。本会議は当館で2月に実施予定。 ・NORNAC大会で研究成果発表を行う。	2月に当館で試験研究機関連絡会議の研究会と本会議を行う。	89%	試験研究機関連絡会議の本会議は中止になった
			他の博物館・美術館と連携し発信力を強化	共同イベントによる博物館の役割のアピール			企画調整課	コロナ禍により休止	コロナ禍により休止	コロナ禍により休止	コロナ禍により休止	0%	
		近隣施設と連携し地域の活性化と集客増	イベントの共同開催や広報における協力	鳥丸半島活性化協議会への参加	広報営業課	共同イベントの実施	コロナ禍により休止	コロナ禍により休止	コロナ禍により休止	0%			
	企業・大学との連携	訪問活動による連携と博物館利用の促進	企業・団体等	リニューアールサポーター・企業メンバーシップ・水槽サポーター制度による支援と博物館利用の促進		広報営業課	流域府県外の企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	流域府県外の企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	コロナ禍により休止	状況を見て訪問再開 交流会は休止 保全活動紹介再開	50%	訪問はできなかったが、グランドオープン内覧会に招待し、つながりを継続した。 保全活動紹介3件	
			大学・短大等	キャンパスメンバーズ制度による学生の博物館利用の促進		広報営業課	より利用しやすい仕組みへ制度見直しも含めて検討	更新の働きかけ 新規先への営業活動	前年度参加大学の内、3大学更新	より利用しやすい仕組みへ制度見直しも含めて検討	50%		

5. 広報・営業活動の強化	広報・営業活動の強化	国内知名度の向上	ターゲットを想定した情報発信		広報営業課	第3期リニューアルの情報発信(+地域)	様々なマスメディアへのアプローチ Twitterの開設等SNS上での情報発信	グランドオープン情報について、全キー局を含む様々な媒体で多く露出 Twitterフォロワー数1,094人 投稿数170 インスタフォロワー数1,447人 投稿数233	旅行誌、web上の情報誌、TV、新聞等への掲載 投稿数、フォロワーの拡大	100%	テレビ・ラジオ107件、新聞266件、雑誌等64件、インターネット847件 ツイッター 1682人 インスタグラム 1526人	
			魅力的なイベント開催によるパブリシティ	リニューアル関連情報の発信	広報営業課	第3期リニューアルオープン記念事業	メディア向け内覧会の実施	10月7日に実施(32社44名参加)	継続的にグランドオープンを効果的広報することで集客をはかる。	100%		
				定期的イベントによる発信	広報営業課	びわ博フェス/アトリウムコンサート	いずれもコロナウイルス感染症対策のため中止	-	-	0%		
			旅行関係機関への働きかけ		広報営業課	旅行代理店をリニューアルイベントへ招待	旅行代理店をリニューアルイベントへ招待	旅行代理店へ参加の呼びかけ	旅行代理店へ参加の呼びかけ	50%		
			流域府県の学校の利用促進	教育委員会や校長会との連携強化	広報営業課	学校訪問を行う	県内を重点的に訪問	県内を重点的に訪問	県内を重点的に訪問	100%	コロナ禍により県内に限定して取り組んだ	
7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	令和2年度	①令和2年度重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(中間)	④令和2年度下半期の取組	⑤R2年度達成状況	⑥R2年度結果と備考	
5. 広報・営業活動の強化	広報・営業活動の強化	国内知名度の向上	ウェブを利用した認知度と利用者利便性の向上	ウェブサイトの再構築(UD化・多言語化含む)	企画調整課 研究部	研究や成果に関するページ追加(調べものができるサイト構築)	既存コンテンツの提供	コロナ禍による休館に対応してページを設置(おうちミュージアム)	おうちミュージアムの再編成	100%	学術的内容を元にしたWeb連載「ミクロの世界へ」を開始した。	
		海外認知度の向上(インバウンド招致)	外国向け広報資料作成	パンフレット(日・英)	企画調整課	パンフレット改定	改定	未着手(3期オープン遅れによる)	改定準備	100%		
				展示ガイド冊子(英・中)	企画調整課	ガイド冊子改定	改定	未着手(3期オープン遅れによる)	改定作業中	-	印刷物を作成せず、英語版HP上の展示の紹介で代用	
				総合展示ガイド(日・英)	企画調整課	作成開始	作成	原稿の執筆開始	1月に写真撮影	50%	令和3年3月出版予定	
				ウェブサイト用PR資料	企画調整課	取りやめ				0%		
	旅行関係機関に働きかけ		広報営業課	休止				0%				
	料金体系の検討	利用しやすい料金体系を検討する	広報営業課 総務課	リニューアル後の料金確定				100%	完了した			
アクセスの向上	バスの増便 湖上交通			広報営業課	増便に向けた協議継続	同左	コロナ禍により協議停止	コロナ禍により協議停止	0%			
6. 資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖	資料活用の促進	重要なコレクションの活用	漁撈用具コレクション国登録			B展示リニューアル	琵琶湖の漁撈用具・船大工用具の多様性を伝える展示の制作。漁具の形状・使用方法をわかりやすく伝える展示方法の工夫。	当該資料を含む展示室全体の施工が完了した。	オープン後の広報対応、研究成果の発信とリンクさせた展示の運用を図る	100%		
			古文書等の計画的公開			B展示リニューアル	B展示室に館蔵資料の複製や画像を展示する。また、館蔵品紹介コーナーを設け、継続して使用できる古文書等の公開の場とする。	館蔵資料を含む展示室全体の施工が完了し、館蔵品紹介コーナーでの第1回展示を完成させた。	館蔵品紹介コーナーにて、第2回以降も、B展示室の展示内容や館蔵資料の研究成果と連動した資料展示を企画・実施する。	100%		
		寄贈コレクションの公開促進	寄贈されたコレクションの公開	フォトCDから媒体の乗り換え			布藤コレクション目録作成 橋本忠太郎コレクション目録作成	・布藤コレクションの整理、登録 ・コケ植物中心にデータベース化し、公開する(目録作成)	・2,700点の整理・登録した ・蘚類は全て同定整理済み、現在苔類の同定作業中、コケ植物全体の70%は整理終了(DBには未登録)	・残り53箱の標本を整理・登録。全データをアップロードし公開する予定 ・同定整理したデータをDBに流し込み、その後公開する	50% 90%	・外国産シジミチョウの同定、整理に時間がかかり、すべての標本の整理、登録ができなかった。残りは4箱で令和3年度には整理、登録が終わり、データベースで公開できる見込みである。 ・コケ植物はほぼ同定・整理が終了した。データベース公開に向けて準備中である。
					写真資料の継続的保存と公開の促進	大橋コレクションの作成と公開		完了	大橋コレクションの活用開始	・コレクションの寄贈手続き ・公開写真の選定と公開ページの準備	・コレクションの寄贈手続きを進めている ・公開写真の選定の最終確認段階	・コレクションの寄贈手続き終了 ・公開ページの準備
		クラウド型資料データベースへ移行			汎用システム移行でセキュリティと発信力を向上	資料活用	完了					

資料検索機能充実	図書総合情報システムへの移行		全国共通図書館データベースに参加	所蔵資料のうち書籍類の登録を継続	登録作業の試験的遂行に基づく今後の必要作業量の具体的な見積もり	自動照合に基づいて登録可能な部分(全体の2割程度)を完了し、手動照合に基づく登録を雑誌から開始	図録など自動照合できない資料のうち典型的類型に属するものの登録作業を進め、作業量見積りに必要な情報を確保	80%	当初、雑誌以外の図書の登録を想定していたが、手作業での費用対効果を考慮し、雑誌を重点的に登録する方針に変更した。方向性が定まり、作業量の全体像が把握できた点で評価できる。登録作業が通常業務により遅れ気味であるため80%とした。
	新たな飼育生物の飼育技術の確立	バイカルアザラシの繁殖	発情周期を把握し、飼育管理を調整	新規個体の入手検討	国内あるいはバイカル湖からの繁殖対象となる新規個体導入	国外からの新規個体導入がコロナ禍により見合わせ中	調整継続	80%	コロナ禍のため今年度新規個体の導入は不可であったが、協力が得られる体制は継続している。
		カヤネズミの繁殖管理	管理計画を策定し、過剰な繁殖を抑制し健全な個体数を維持	計画的繁殖の再検討	繁殖コントロールによる展示個体の維持	計画的繁殖実行中	繁殖不可の場合、新規個体導入予定	70%	新規個体導入と施設内繁殖を進めた。結果として高齢化による個体数の減少が進んだ。
飼育生物の計画的な繁殖	日本産希少淡水魚の継続的な飼育	個体数減少種の入手と遺伝的な多様性の確保	他の施設との連携を強化し、資料交換や共同飼育	他機関との連携強化、入手継続、水族企画展・企画展を通じて普及啓発活動の実施	他機関からの新規個体の導入、展示を通じた普及啓発活動	一部の種について導入が完了、新型コロナウイルスにより開催の遅れた企画展の準備	企画展の開催・運営、残りの種について導入	95%	水族企画展は開催できなかったが、企画展は会期を変更して開催された。ヒナモロコについて他機関から分譲を受けた。また、スジシマドジョウ類について他機関へ繁殖技術の提供を行った。

7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	令和2年度	①令和2年度重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(中間)	④令和2年度下半期の取組	⑤R2年度達成状況	⑥R2年度結果と備考
7. 「湖と人間」の関係を考える研究の推進	琵琶湖の価値の発見につながる研究強化	琵琶湖地域の「湖と人間」の関係変遷を探る総合的な研究の推進	専門、共同、総合研究や外部資金を組み合わせた研究	(総合研究の課題) 琵琶湖地域の自然および自然観の通時的変遷に関する研究	研究部	B展示リニューアルに反映	研究成果を反映させた展示について、展示資料、造作物製作、グラフィックや解説パネル等の原稿を準備し、グランドオープンを実現する。	10月10日のグランドオープンに向けて準備を整えている		100%	予定通りオープンできた。
				(総合研究の課題) 過去から現在までの琵琶湖淀川水系の自然と人の暮らしの変遷に関する研究		総合研究の推進	各分野の既存研究成果の集約と連携の検討	時間情報解析ソフトへの既存情報の入力	新型コロナウイルス感染拡大のため、上半期の研究会は中止した。下半期にオンライン等も含めた研究会を検討中。	100%	2月にオンラインによる研究会を実施した。
		「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究 ・湖や固有種の成立 ・人の暮らしと生物の営み	協力連携機関との共同研究①古代湖	バイカル博物館(ロシア)、オフリド水生生物研究所(マケドニア)との連携		共同研究の展開	情報共有の継続	資料のやりとりなどを進める予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため困難となった。	可能な形で、引き続き情報共有を継続する。	60%	
			協力連携機関との共同研究②東アジアにおける琵琶湖淀川水系	水生生物研究所・湖南省博物館(中国)、洛東江生物資源館(韓国)との連携		研究成果の展示の検討	情報共有の継続	資料のやりとりや合同セミナーの実施を進める予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため困難となった。	出版物の交換など、引き続き可能な形で情報共有を継続する。	60%	
	研究成果の発信力強化	「木から森へ」の博物館学の追求	博物館機能を活用した博物館学研究の推進	博物館学研究領域を中心とした方法の開発	共同研究の開始	具体的な共同研究の可能性を検討	個々の学芸員の研究テーマが異なり、共同研究としてまとめることが難しい。	個人研究を進展させて共同研究への発展を試みる。	60%		
			インターネットでの発信	研究成果に基づく情報ページを開設	ページ作成と公開	英語サイトを含む学芸員紹介ページの更新	上半期はリニューアルとコロナ対策で研究発信が滞ったため、下半期に作成と公開を進める。	ページとコンテンツの作成と公開。	50%	新たなページを開設するには至らなかった。	
		刊行物による発信	『琵琶湖博物館』を冠にした一般書籍の発行	子ども向けの読み物を検討	ブックレットの刊行を継続	ブックレット12巻を編集中。年内に刊行予定。	編集中の巻の刊行と、次号の編集。	100%	1月に12号が発刊された。		